

## 組合士

# アラカルト

東京都中小企業組合士協会副会長  
東京都左官工業協同組合顧問



工業株式会社 黒川政春さん  
masaharu kurokawa

## 経営者 そして組合士として

会社設立から50年以上にわたって「左官工事一筋」を掲げる徳和工業株式会社（本社・東京都中野区）の黒川政春代表取締役会長は、東京都左官工業協同組合理事長や一般社団法人日本左官業組合連合会副会長などを歴任し、さらに東京都中小企業組合士協会副会長を務めるなど、経営者と組合士として、多忙な日々を送る。

### ●伝統技能としても評価される「左官職」

日本における左官の起源は古く、縄文時代に遡るともいわれている。

黒川会長は、「東京都左官工業協同組合は、明治16年に『東京左官職組合』として発足し、昭和25年に現在の名称となりました。歴史が古いので、かえって発展しない面もありますが、組合として伝統技能の継承には力を入れてまいりました」と振り返る。

「一方で、私が理事長に就任した平成20年はリーマン・ショックが日本経済にも大打撃を与えて倒産が相次ぐなど、経済の悪化や少子高齢化の影響は受け続けています。厳しい時代が続いて苦慮していますが、銀行など多くの方の協力などもあり、ここまで来ることができました」

### ●中小企業に求められる「オールマイティ性」

黒川会長が組合検定試験に合格したのは、昭和47年

のことだ。

「私は、左官の技能者ではなく、ずっと設計・施工に携わっておりました。ゼネコン勤務を経て昭和42年に現在の会社に入社したのですが、当時の木和会（もくわかい）建設協同組合の副理事長に声をかけられて、東京都中央会の講習を受けたのが受験のきっかけです。建設工事の積算及び原価管理などは得意でしたが、法律など文系の勉強は初めてでした。中小企業は事務から現場の仕事までオールマイティにできなければなりませんから、試験勉強は非常に役に立ちましたね」

黒川会長は、その後も経理を含めた事務全般を担当することになる。

「もともと数字には強かったのですが、昭和40年代といえばパソコンなどはなく、算盤で計算していた時代です。小さな子たちにまじって町の算盤塾にも通いました（笑） 組合の会計や法律は勉強すればするほど成果が出るので、達成感がありました」

### ●組合の資質向上にも役立つ

黒川会長は、組合士の資格を持つ経営者として、組合の存在感を重視しながら会社と組合、業界に貢献を続けてきた。

「経営者の皆さんは、もっと組合士に対する理解を深めるべきですね」と強調する。

「組合の資質向上や、適正な管理にはぜひ必要であり、管理する上でもいい資格だと思います。組合運営や経理、組合法、労基法などいろいろなことが体系的に学べるので、なかなか定着しないのは残念なことです。組合士は事務局の核となる存在ですから、ぜひ多くの方に勉強していただきたいですね」

### ●現場と「目線」を合わせる

「特に若い方にはがんばってほしいですね。わたしも組合士になったことで、理系から文系までカバーできるようになり、さらに異業種・異世代の方と交流することで、自分の世界も広がりました」

さまざまな業界を知ることは、自分の勉強にもなる。

「左官業界は厳しい職人の世界であり、各自がプライドを持って仕事をしているので、目線を合わせる事が大切だということがよくわかります。これからも、一人でも多くの組合士が誕生するように、働きかけてまいります」と述べた。多くの業界で組合士が生まれることを期待したい。